

一 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

少し前までは「た」といえばバブルのころとか、あるいは高度成長期などでも「夢とか目標とかといえば、よい大学に入るとか、よい会社に就職するとか、出世するとか、もう少し単純な話だったように思いますが、いまは、「そんなこと」よりも「もっと大切なこと」があって、それは、真の自分らしさを追究することなのだ、重要なものは、自分の真価（自分らしさ）が発揮できるスペシヤルな何かを見つけ、それに打ち込むことなのだ、と。人との競争に勝つことよりも、「自分の世界」で自分らしく生きるほうがよっぽどカッコいいですよ、というわけですね。ベスト・ワンよりオズリー・ワンの生き方です。

しかし、そのようなホンモノ探しには複雑な気持ちにさせられてしまいます。なぜなら、ホンモノの自分、自分らしきを見つけて出すことは⑧「シニ」の楽だからです。

それでも、自分らしきの追究をしない者は×（ペケ）だとか、自分らしい生き方を引き当てた人間が○（マル）だとか、いささか単純な決めつけが⑨「横行」している感じがします。現在ではそれが、一つの文化的な現象になっているのではないのでしょうか。

すでに述べたように、日本には、うつ病の人が一〇〇万人以上いると言われています。たいへんな数字ですが、なぜそのようなことになったかといえば、このホンモノ探しの文化と無関係ではないかもしれません。

「ホンモノの自分を探せ」

これが、時には⑩「強迫観念」になり、人を追い込んでいくことが結構あるのではないかと思うからです。その価値観に照らして、「これは本当の自分ではない」「もっと輝くホンモノの自分があるはずだ」と、七転八倒している人たちがいるのだとしたら、ホンモノ探しの功罪について考えざるをえません。

もちろん、ホンモノ探しにはプラスの側面があります。芸術というものはすべて自己表現の願望から生まれてくるのですから。

しかし、芸術的な価値のあるものを表現できるのはごく一握りの人であって、普通の人にはそれは⑪「エ」遠いものはずですね。そのために、さんざんもがいたあげく、結局何も見つけられず、何ら個性的にもなれず、やっぱり自分はダメだと絶望することもあるでしょう。

逆に、オズリー・ワンになれない私は生きていく価値がないとまで思ってしまうことになるくらいなら、「サ」ラリーマンは気楽な稼業ときたもんだ」と、平凡な終身雇用の文化に甘んじていたほうがましだと思う人もいますでしょう。

それくらい、ホンモノ探しは神経をへトへとにさせるのです。これは、絶対に手の届かない目標を彼岸に立てて、永遠にそれに向かって努力しつづけるような、ヘーゲルの言うところの「不幸な意識」に近いのかもしれない。

そして、世の中の一部は、そんな状況を黙って見ていないのです。

人びとはそんな「くよくよ」を解消するためのセラピー本や、マイナス思考をプラス思考に転じさせる自己⑫「グ」発本のようなものをそろそろと繰り出してきているのです。新書の幸福論です。⑬「人の頭をさんざんなぐって」おいて、そのあとで痛み止めやしつぷ薬を売る、そんな「悪徳商法」まがいの文化が蔓延しているのです。

やりきれない気持ちになってしまいます。

私は、うつの人、引きこもっている人、自殺未⑭「ス」イの人……、⑮「隘路」に迷い込んでいる人びとを、ただ何となく時代の病理として扱うのではなく、自己実現に失敗した凡人の群れと見るのでもなく、精神的な弱さとして切って捨てるのでもなく、⑯「彼らをむやみに自分らしさの探求に駆り立てるもの」をしっかりと見つめ直しておく必要があると思うのです。

先ほど若者のフアンションを例に出したように、ホンモノ探しの願望が消費社会のいちばん川下で大衆化したものがフアンションです。

人は身につけるものによって、他人とは違う自分らしさをアピールしようとするわけですが、このホンモノ探し文化から浮かび上がってくるのは、人とは違う「自分らしさ」を求める願望は、絶対に「自分だけ」ではかなえることができないということです。なぜならば、いくら自分を鏡に映して自分だけのナルシスティックな世界に浸ってみても、人が「いいねー」と評価してくれなければ、ホンモノをアピールしたとはいえないからです。

この「独我論」と「コミュニケーション」との間で宙吊りになっている状態で、⑰「そのような矛盾した努力を」全員が必死になってやっているといるのが、ホンモノ探しの文化なのです。

姜尚中「続・悩む力」による

問一 傍線部①～⑦のカタナを漢字に改めたものとして適当なものをそれぞれ後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

傍線部①～⑦
①至②指③師④支 ⑤園⑥縁⑦艶⑧宴 ⑨啓⑩系⑪警⑫敬 ⑬推⑭逐⑮堆⑯遂

解答番号 ㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝

問二 傍線部①～⑦の意味として適当なものをそれぞれ後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

傍線部①～⑦
①悪いことと知りながらやめられない ②人道的に良くないことを無理強いしている ③望ましくないことがあちこちで起こっている ④人の話に横から口を出して妨害している ⑤曲がりくねったぬかるみの道 ⑥狭くて通りにくい道 ⑦踏み外してはならない人の道 ⑧行き止まりになっている道

解答番号 ㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝

問三 傍線部①の意味として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ㉗

- ①恐怖に陥れられ落ちついていられない感情
②心にまとわりついて離れない不安や不快さ
③人におどされてしかたなく罪を犯す弱い心
④目的が達成できずに心に抱えている罪悪感

問四 傍線部②の説明として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ㉘

- ①ナニバークからオシリワンへと追求を変える。
②アイナス思考が実はプラス思考だったと理解させる。
③くよくよしている人を一喝して立ち直らせる。
④不安をおおっておいて不安解決の本を売りつける。

問五 傍線部③の指し示すものとして適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ㉙

- ①多くの人々が追求するべき現代の正しい価値観は自分らしさの実現だという世間一般の風潮。
②生きる目的を、競争して勝つことから自分らしく個性を発揮することへ変化させた政府の方針。
③過度な詰め込み教育の反動として過度なゆとり教育を行なった教育政策の混乱。
④最先端の資本主義社会として自由な経済競争をしながら働き方改革をし続けてきた社会の常識。

問六 傍線部④の説明として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ㉚

- ①人と違う自分らしさを求める願望と人と違うことをすると仲間外しにされる恐怖との矛盾を含んだ努力。
②自分らしさの評価は他者には関係なく自分自身にアピールして自己陶醉することを目的に続ける努力。
③自分だけの自分らしさを求めても自分だけでは達成されず結局他者の評価を求めるといふ矛盾した努力。
④一流の芸術家になれるような錯覚を周囲の人から抱かされてホシモノの自分探しを一生続けていく徒労。

問七 この文章の内容として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 ㉛

- ①昔は家業を継がねばならない人生や資本主義の競争社会で勝ち残る人生があり、今は自分らしさの実現を求める人生へと時代と共に変化してきたが、どの時代も正しい人生である。
②以前は競争に勝たねばならないというプレッシャーがあり、今は自分らしさを発揮しなければならぬというプレッシャーがあるが、人が追い詰められていることに変わりはない。
③他人には無い自分らしさの追求をして、他者がいない所で自己実現するのは独り相撲であるが、それでも内心の充足や安堵感があるならばそれは本物をアピールすることと変わらぬ。
④競争というものは商売にするスポーツにする勝者と敗者を作ることになるが、必ずしも金銭や名声でなくとも自分の内面に幸せを感じるような人は人生の勝者と言って良い。

二 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

かの「マツケンサンバII」を振り付けた真島茂樹さんの急逝を受け、作曲家の宮川彬良さんと久しぶりに語り合ったのは、宮川さん自身が「これはサンバではない」といふ人々に⑦揶揄され、人知れずモヤモヤ

していたという話だった。

「確かにサンプスを象徴する楽器は使っていない。でもサンプスの本質は、あらゆる階層の人々の人生が混然一体となる陶酔なんです。誰をも拒まず輪の中に迎え入れる『マツケンサンバイII』こそ正真正銘のサンプだ」と、僕は胸を張って言いたい」

サンプスを生んだのは19世紀、奴隸貿易でブラジルに連れてこられた黒人たちだ。アフリカのリズムを根底に、東欧を含む世界の多様なリズムを原型のまま、力強く、複雑に内^⑨ホウしている。リオのカーニバルの祝祭感を演出する一方で、憂いと優しさで傷ついた心を包む、ボサノバのような歌も。⑩「ジャズ」というものが、実はいかに恣意的かつ暫定的な装置であり、その本質と歴史に心を向けない人々による排除の冷笑と分断を生む「権威」となりかねないかということを、あらためて心に刻む。

「マツケンサンバイII」を聴くたびに、思いがけない和音を^⑪勘所に置き、自在にハーモニィを移ろわせる宮川さんの技の非凡さに唸る。幼い頃からギヤバレーなどで作曲家の父、宮川泰さんの録音を手伝いながらものにした現場感覚と、アカデミックに鍛えた伝統的な和声感のハイブリッド。ここまで繊細に味付けしなくても、リズムムだけで十分に心が躍る。でも、本物の職人は気付かれにくいところにこそ手をかける。

かように誰にでも愛される作品に、人間性を軸に磨き上げられたクラシックの技法がさりげなく息づいてると気付くとき、伝統というものの凄みを思い知る。いつの時代も^⑫芸術家は普通の共通言語を求め、古今東西の先人から^⑬真摯に学ぶ。そして継がれた技術こそ、利他の精神を凝縮した人類の知恵の集積だ。

3年前の東京五輪の折、「開会式と閉会式で『マツケンサンバイII』を」と望む声が日本中にあふれたことを今も^⑭セン列に覚えている。生身の人間の勢いが束になり、思いがけなく生まれる何かへの渴望がコロナ禍で可視化されたかのようなだった。

今は、テレビドラマや映画の音楽の多くが機械でつくられる。自宅で独り、楽器の音を重ね、オーケストラのサウンドを模倣することも簡単にできる。NHKの「のだ自^⑮」の伴奏も生のバンドからカラオケになった。生身の人間のざらりとした手触りがいつしか希少なものとなり、^⑯「コスバ」の旗印のもと急速に時代の後景へと押しやられてつめる。

大ピアニストのアウリツォ・ボリーニさんは、18歳で受けたシヨバン・コンクールで審査委員長の巨^⑰「シヨウルービンシエタインに「いまここにいる誰よりもうまい」と言われた。最先端の機能を搭載したスポーツカーのごとく、誰もが言葉を尽くして称えた。脚光を離れ。8年の自己研鑽を経て表舞台に戻ってきたボリーニさんは「私たち演奏家は作曲家のしもべ」と語った。私の技術は私自身を誇示するためのものではなく、芸術への献身のためにあるのだと。

真島さんは近年も、小さなスタジオでソロの創作ダンスを発表し、可能性の限界に挑んでいたという。向上心を忘れず技術を磨き、祭りの櫓を下寧に組む。⑱「人々の心の幸福に献身し、⑲本当に良いものを創る人は、いつも喧噪や熱狂の外側にいる。」

問一 傍線部⑳のカタカナを漢字に改めたものとして適当なものをそれぞれ後の①～④の中から選んで記

号で答えよ。

㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕

㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚

㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟

㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵

解答番号㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵

問二 傍線部㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵の意味として適当なものをそれぞれ後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟

㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟

問三 傍線部㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵の趣旨として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵

①「これがサンプだ」というジャンル分けは19世紀に成立したが、それは思い通りの勝手な考えであり、サンプの本質と歴史を知ればアフリカ人や黒人を蔑視するための理不尽なものだったことが分る。

②サンプという音楽を狭く定義するジャンル分けは、サンプの民族的多様性と多層性を否定することになり、マツケンサンプはサンプではないと排除して馬鹿にする手段になってしまう可能性がある。

③サンプの形は決まりがあるわけではなく、昔のヨーロッパ人が勝手に一時的に定めておいたものかいつの間にか学説が定着してジャンルに渡ってきただけで、本来権威ある学説ではなかった。

④サンバの本質はあらゆる階層の人々を巻き込む陶酔であるのに、誰か一人の権威者がサンバを狭く定義しただためにサンバのリズムで踊ってもブラジル以外の国ではサンバと認められなくなった。

問四

傍線部②の説明として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 20

- ①人種、民族・国家、宗教、時代などを越えたあらゆる人に感動を与えるものを芸術家は追求する。
②芸術家は現代の言語にはない全く新しい世界共通の言語を作り出して争いのない平和な世界を作る。
③古今東西の芸術家達は、自国の芸術を世界共通のものにしようとして他国の芸術家と戦いを続けてきた。
④芸術家はグローバル化され、民族、宗教、地域などの芸術の特徴がなくなつて画一化されてきた。

問五

傍線部③の意味説明として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 21

- ①今はA1で容易に作曲や演奏ができ、声も合成できるので、作曲家も演奏家も声楽家も存在意義が薄れているが、最後は人の手が入らないと音楽として完成しない。
②資本主義の競争社会ではより速く、より省エネでより安く作り、競争相手より多くの利潤を生むのが良いことであるので、世界の貿易摩擦は解決することはない。

- ③A1などで合成されるDで作られた製品が熟練工の製品と見分けがつかないほど優れているので、今後職人は世の中で必要とされなくなっていく。
④経済効率を最優先するために多くの仕事が機械化され、時間と人件費がかさむ手仕事などといわれるものが消え去ったり時の流れから取り残されたりしている。

問六

傍線部④説明として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 22

- ①幸福とは身近にあり、それは平凡なことに宿ると人々に知らせる。
②人々の豊かな生活を願って経済効果のあるイベントを企画する。
③他者の心の幸福を願って私欲を抱かずに自分を犠牲にして働く。
④金品への欲を捨てて自己の心の幸福を求めてストイックに生きる。

問七

傍線部⑤の説明として適当なものを後の①～④の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 23

- ①真に価値ある仕事をする人は賑やかさやとは関係なく脚光を浴びなくても自己を誇示しながら静かに存在している。
②良い仕事をする人は脚光を浴びるような所にはあまり出ず、目立たないところで謙虚に自分の技を磨き続ける。
③真に仕事のできる人は自己宣伝のための派手なパフォーマンスも大変上手であるが、仕事は独りで黙々と続ける。

- ④本物の職人は目立ちたがる反面、トークは得意でないが、黙々と働き作品の目立たないところには繊細な手を入れる。

三

次のA～Eの傍線部の「よう」の文法的な働きとして適当なものを後の①～⑦から選んで記号で答えよ。

解答番号 A 24 B 25 C 26 D 27 E 28

A「よし、この仕事に賭けてみよう」

B「今日は大荒れだが、明日は晴れよう」

C「どうしてこんなことが許されようか」

D「折角寝ようとしたときに電話が鳴って、誰だ、今頃」

E「あいつが何をしよう」と俺の知ったことではないよ」

- ①表現する直前を表す ②添加 ③反語 ④仮定 ⑤推量 ⑥否定 ⑦意志

四

次のA～Eの()の中に入る言葉として適当なものを後の①～⑦から選んで記号で答えよ。

解答番号 A 29 B 30 C 31 D 32 E 33

A物価高で何でも値上がりして買うのに二の足を (A)。

B真面目にしないといけないときも斜に (B) 性格だから嫌われる。

C若い頃ずいぶん世話になった彼女のためなら一肌 (C) よ。

D 訪問看護をしていて患者の家族から身に(D)話を聞いた。

E 長い間内偵して刑事が犯人の目星を(E)。

- ①見る ②構える ③踏む ④つける ⑤脱ぐ ⑥つまさける ⑦走る

【五】

次のA～Fの意味になることわざとして適当なものを後の①～⑨から選んで記号で答えよ。

解答番号 A [34] B [35] C [36] D [37] E [38] F [39]

A 辛抱強く続けられれば必ず成功する。

B どんなに弱そうな者にもそれなりの意地があるから侮ってはいけない。

C 世間にもまれて実社会の苦しい経験を積む。

D 相手が好意を示してくればこちらにも応ずる気持ちが起こる。

E 似たような物事が次々に発生するたとえ。

F 少しの負担・投資で大きな利益・収穫を得ること。

- ① 魚心あれば水心 ② 他人の飯を食う ③ 雨後の筍 ④ 石の上にも三年 ⑤ えびで鯛を釣る
⑥ 一寸の虫にも五分の魂 ⑦ 小田原評定 ⑧ 蛇の道は蛇 ⑨ 内弁慶

【六】

次のA～Fの四字熟語の意味として適当なものを後の①～⑨から選んで記号で答えよ。

解答番号 A [40] B [41] C [42] D [43] E [44] F [45]

A 森羅万象(しんらばんしょう) B 牽強付会(けんきょうふかい) C 泰然自若(たいぜんじやく)

D 明眸皓齒(めいぼうこうし) E 比翼連理(ひよくれんり) F 付和雷同(ふわらいどう)

① 命令がコロコロ変わって一貫性がない事 ② 慌てふためくこと ③ 大変強い戦士であること

④ 深い愛で結ばれた夫婦は一心同体の意 ⑤ ゆったりと落ち着いた様子 ⑥ 大変美しい女性の比喻

⑦ 自分の都合に合わせてこじつける意 ⑧ 世の形あるすべての物の意

⑨ 自分の主義・見識をもたず、むやみに他人の意見に従うこと

【七】

次の文章の(A)～(F)の中に入る作家として適当なものを後の①～⑧から選んで記号で答えよ。

解答番号 A [46] B [47] C [48] D [49] E [50] F [51]

昭和二十年の敗戦の後、言論統制が解かれると、文壇に活気が戻った。最初に旺盛な活動を開始したのは、戦

前から活躍していた作家たちであった。永井荷風は「隅子」を、志賀直哉は「灰色の月」を、川端康成は「千羽

鶴」「山の音」を書いたが、中でも(A)は大作「細雪」を書いた。この作品は大阪船場の商家の四姉妹の

生活を中心に、上方の文化習俗、世相の変化などを組み入れて優美な絵巻とも言える作品となった。

戦後の混乱期に、既成のモラルや文学観に反発して、虚無的・退廃的な態度の中に文学の意味を追究したが、

無頼派(新戯作派)と呼ばれた作家たちであった。斜陽族という流行語を生むくらいに広く読まれた「斜陽」や

「人間失格」を書いた(B)、「白痴」「墮落論」を書いた坂口安吾、「夫婦善哉」の織田作之助などがそう

である。

昭和二十一年に創刊された雑誌「近代文学」を中心に活躍した作家や評論家たちのことを第一次戦後派という。

彼らは自らの戦争体験に根ざし、人間と社会を根元的に見つめようとした。その代表作として野間宏の「暗い絵」

「真空地帯」、梅崎春生の「桜島」、椎名麟三の「深夜の酒宴」、埴谷雄高の「死霊」などがある。

第一次戦後派に続いて登場した個性的な才能を持つ新人たちを第二次戦後派という。「俘虜記」「野火」「武蔵

野火人」を書いた(C)、「仮面の告白」「潮騒」「金閣寺」などを発表した(D)、「壁」「砂の女」など

の前衛的な作品を書いた安部公房、「死の棘」などの島尾敏雄などが挙げられる。

昭和二十七年、八年ごろに登場してきた新人作家たちは私小説の流れをくんで日常的な市民の生活に立って作品

を作ろうとした。第三の新人と呼ばれる人々である。「悪い仲間」「海辺の光景」を書いた安岡章太郎、「驟雨」

「砂の上の植物群」の吉行淳之介、「アメリカン・スクール」の小島信夫、「プールサイド小景」「静物」の庄野

潤三、「海と毒薬」「沈黙」の(E)らがいる。

敗戦後十年が経ち、昭和三十年度に(F)の「太陽の季節」が芥川賞に選ばれ、世間では「太陽族」

という流行語までできるようなものではやされたが、この作品はそれまでの文学観を無視していたので「真の戦後

文学」と評する人もいた。このように文学もその時の時代背景・時代風潮とともに推移しながら今日に至ってい

る。

- ①大岡昇平 ②石原慎太郎 ③遠藤周作 ④大宰治 ⑤志賀直哉 ⑥井上靖 ⑦三島由紀夫 ⑧谷崎潤一郎